

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 新居浜市立西中学校 (※正式名称を記載)
種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫^{※注1}
☒ 中学校 ☐ 中高一貫^{※注2} ☐ 高等学校
☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校
☐ 特別支援学校
☐ その他（例：小中高一貫）
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒792-0005
愛媛県新居浜市江口町7番1号
E-mail niiwj-ad@esnet.ed.jp
Website https://niihama-nishi-j.esnet.ed.jp/cms/

幼児児童生徒数 男子 123 名 女子 111 名 合計 234 名
幼児・児童・生徒の年齢 12 歳～15 歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

本校では、ESDの取組として「地域に学ぶ」をテーマに、各学年で段階を追った学習を進めている。第1学年では「別子銅山」について学習し、先人の取組から今後の町づくりについて学習した。また、第2学年では、職場体験学習として実際に地域の中に入り、そこで働く様々な人と触れ合い、つながることで、自分自身の将来について考えた。さらに、修学旅行で神戸人と防災未来へ行き、防災について学習した。第3学年では、身近な地域の環境・人権・福祉の課題に対して、どのように行動すべきかを考え、実際に活動を進めることで、どうすれば地域の将来が持続的に発展していくことができるかを考えた。



(2) 活動の詳細

① テーマ（主題）

「地域を知り、人とつながり、未来を拓こう」

② 活動内容について

ア ふるさと学習

毎年1年次に、「別子銅山」についての学習を、総合的な学習の時間を中心に行っている。今年度は、銅山の里自然の家が休館になったこともあり、宿泊して別子山村の別子銅山跡の見学はできなかったものの、総合的な学習の時間を利用して、調べ学習したり、マイントピア別子で別子銅山の施設跡などを利用したテーマパークで当時の様子や、別子銅山でどのようなことが行われていたかを学習した。

イ 人権学習

本校の特色ある取組として、人権劇をたくさんの方々に見ていただき、身近な人権問題について考える機会を作っている。これは、生徒会の人権委員会の活動の一つで、3年生の総合的な学習の時間の人権班が台本と演出を考え、全校の人権委員が劇の運営に携わっている。今年度も、校区の小学6年生を招き、「ともだち」という題で、人権劇を行った。内容は、普段の生活の中で、友だちとどう接していけばいいのかを問うようなものだった。また、本校の生徒会活動の一つである「西中差別をなくす会」の活動も行った。「身元調査お断り運動」に関するもので、校区の文化祭でアンケート調査を行い、考察した。

ウ あいさつ運動

新居浜市全体の取組として「あいさつ日本一」の運動を行っているが、西中でも、毎朝、生徒会役員と学級委員が正門に立ち、登校生徒に「おはようございます」と、あいさつ運動を行っている。本校では、様々な分野で、日本一という高いレベルを目指して頑張る「日本一プロジェクト」を実践しているが、あいさつに関しても日本一を目指そうと、どんなあいさつが日本一かを考え、日々実践している。

エ ボランティア活動

朝の会の前に、有志を募り、奉仕活動を行っている。特に秋の落ち葉の季節は、多くの生徒が、自主的に清掃活動を行った。また、夏休み中のPTA奉仕作業でも、多くの生徒が、奉仕作業へ参加し、時間いっぱい積極的に活動した。

オ 防災教育の充実

全校で、避難訓練等の防災に関する活動を行っているが、今年度は、2年生の修学旅行の日程に、神戸防災センターへの訪問を組み込んだ。修学旅行前には、防災に関する学習を事前に行い、防災センターでより深め、防災意識を高めるような学習ができた。

③ 成果と課題

本年度のふるさと学習では、1年生が現地に出向き、実際に別子銅山の功績を見学することで、別子銅山について身近に感じるようになった。そして、わが町新居浜の発展の礎を築いた先人たちへの感謝とともに、持続発展的に新居浜をより良くするための考えを深めることができた。昨年度まで銅山の里自然の家へ宿泊し、別子山村の様々な場所を見学し、銅山跡から当時の様子を学んでいたが、今年度から自然の家が臨時休館している

ため、総合的な学習の時間に時間を確保し、別子銅山について学習をした。人権学習では、同和問題をはじめとする様々な人権問題について目を向け、各学年の人権・同和教育年間指導計画のもとに、学習を積み上げてきた。今年度4月に出た、法律を受けて、全体計画と年間計画を見直した。生徒会と3年総合的な学習の時間人権班が中心となり、人権集会で人権劇を行った。今年度は、生徒会活動の一つでもある「西中差別をなくす会」の活動でもある「身元調査お断り運動」の大切さを呼び掛けていたことにより、来年度の3年生にも引き継いでいくきっかけになった。E S Dの活動は総合的な学習の時間を中心に実践しているが、教科や毎日の生活における日々の地道な実践も大切に思う。統合した計画を作成し活用することで、より現実的で有効な指導を今後も継続して進めていきたい。

ア. 活動分野（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

<p><パンフレット> 広瀬幸平～問わんと欲す国家経済のこと～編集発行 新居浜市広瀬歴史記念館 天空からふる里発見～誇りある私たちの郷土・新居浜～ 編集発行 新居浜町おこし委員会 など</p>
--

- ① ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（２００～３００字程度）

ＥＳＤの取組として、教科・教科外のすべての活動で取り組んでいる。教科の特性を生かし、専門的なことに関しては知識を深め、総合的な学習の時間にまとめや実践活動を行っている。また、修学旅行や遠足などにも学習の場を取り入れ、机上の学習だけでなく、実体験をもとに知識や技能を深めている。知識だけでなく、道徳や学級活動を通して、内面的なことについても考え、今後の自分自身について考える場を作っている。

- ② 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（２００字程度）

統合年間指導計画を作成し、他教科や他活動との関連を整理し、系統立てて活動を行うようにしている。また、発達段階に応じた各学年の取組を考え、発展的に学習していくようにしている。将来、自分自身が自ら進んで行動・活動できるような将来を見つめた展望を持たせるようなまとめ方を心掛けている。

- ③ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部／外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（２００字程度）

活動の計画は、生徒たちで立てさせ、活動の後、自己評価をして、今後の活動の手立てを考えさせる。自分たちで考え、計画していくことで、意欲や主体性も増え、活発な活動になってきた。今後の課題として、調べ学習の際に、図書室やパソコン室の利用を活発にし、他学年や他学級との活動場所の割り振りを整備していく必要がある。

- ④ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（２００字程度）

活動成果をホームページや学校だよりなどで発信しているが、閲覧する方が多く、新しい更新の希望も多く、地域の人たちの関心も高い。またね学校行事など、保護者や地域の方々へ参加依頼をしても積極的に参加していただけることが素晴らしい。今後も地域への発信は続けていく予定である。

- ⑤ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）
（200字程度）

学校以外との連携は、まだあまり活発にできていないが、本校区内には、企業がたくさんあり、保護者の中にも新居浜市を支える企業に勤めている人も多く、総合的な学習の時間などに講師依頼をし、お話をして頂くこともあったので、今後お願いしたいと考えている。

- ⑥ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

国内外との交流は、現在できていないが、今後他校、他地域との交流を目指し、ESDの活動を深めていきたいと考えている。平成31年度から新居浜市の中学校でも、コミュニティースクールの導入がされることになるが、地域と共に生活していく中学校であることを目指していきながら、地域間の交流もしながら活動を深めていきたいと考えている。

- ⑦ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

特に総合的な学習の時間が主に活動を行っていたが、生徒たちが、教科の授業以上に楽しみながら、主体的に活動していたように思われる。また、ふるさと学習など様々な分野での活動で、わが町新居浜市の良さやすばらしさを再認識することができた。知らないことは新しい発見であり、知っていることもより深いことについても知ることができた。

- （3）平成30年度の活動計画（200～400字程度）

平成30年度は、例年通り、1年では、ふるさと学習。2年では、職場体験学習や防災教育。3年では、環境・人権・福祉班に分かれ、地域の一員として、地域の中を見て、今後のことについて考える場を作っている。2年では、職場体験学習では、進路学習につなげ、将来の自分自身について考えさせている。